

令和5年度まちかどミーティング会議録

開催日 令和5年10月27日（金）

地 区 豊川町地区

会 場 豊川コミュニティセンター

<意見交換>

◆市民 豊川町内会の・・・といいます。ここの町内会は、こもれびの道というすばらしい散歩道路がございます。有志の方がこの前の15日のごみ拾いの日に枝を集めていただいて、また、月曜日でしたか、帰り、市のほうに言いまして、枝をきれいに回収していただきました。誠にありがとうございますございました。

また、私はコスモスを植えているんですが、このコスモスを、今、花が終わりまして、少し風で倒れています。間もなく抜きます。その回収もぜひ、私のほうが電話いたしますので、回収のほどぜひよろしく願いいたします。以上でございます。

○司会 ありがとうございます。ただいま、コスモスがもうすぐ終わって、また回収をお願いしますということだったんですけども、市のほうで回答できる方、いらっしゃいますか。

○緑地公園課長補佐 私、緑地公園課の神野と申します。公園だとか、あと街路樹だとか、その辺の管理を担当させていただいております。日頃よりこもれびの道のごみ拾いと、ごみじゃないですね、落ち葉だとかを拾っていただいたり、あと、コスモスなどを植えて、その環境美化活動にも有志の方たちでやっていただいて、誠にありがとうございます。

ただいま、これからコスモスのほうをちょっと抜かれるということなので、そちらのほう、ご連絡いただきましたら、それは適切に回収させていただきたいと思いますので、ご連絡のほうよろしく願いしたいと思います。

◆市民 よろしく願いします。

○緑地公園課長補佐 お願いします。

○司会 それでは、ほかにどなたかいらっしゃいませんか。はい、今、マイクをお持ちいたします。

◆市民 豊川町内会の・・・と申します。私、視覚障害者なので、町内会からどのような情報が出されているとか読めないんですけども、恐らくいろんな会場で出された疑問だと思うんですけども、道南バスの12月からのダイヤ改正のことについてお聞きしたいんですけども、幸い、私たちは豊川三丁目に住んでいますので、バス停がかなりもう、5分以内のところでもう何か所も乗れる状況にあって、ちょうど私、70歳を超えていますので、100円でバスに乗れるのを使って利用させていただいているんですけども、その辺の状況といふかな、バスの、もちろん私立の会社ですから、市が直接責任を持つわけではないと思うんですけども、いろいろな補助金も出されていると思うので、その辺の現状といふか将来性といふか、それと、70歳以上は100円のパスを発行させていただいているんですけども、これがいろいろ財政が厳しいから、例えば75歳以上に変えるだとか、

そういう変更も考えているのかどうか、それをちょっとお聞きしたいと思います。

○**司会** ありがとうございます。ただいま道南バスのダイヤ改正についてということでしたが、回答をお願いいたします。

○**総合政策部長** 皆さん、こんばんは。道南バスの担当をしております総合政策部の町田といいます。

今、この道南バスの状況についての説明をということで、おっしゃるとおり、12月からダイヤが改正になります。これ初乗りが150円から250円に上がります。あと、その中で一番値上がり幅の大きいのが、定期代がかなり上がる。これ、学生さんにかかなり影響が出るということで、今回、前回の議会で値上がり分の半分を市のほうで支援しようということで、議会の議決を得まして、今後、その対応をやっていく予定であります。

それから、今度、来年度、来年4月からバスの路線を再編させていただくという道南バスさんの意向がございまして、現在、対象となる地区の町内会を担当者が回って説明をさせていただいていますが、来月に入りましたら、今度は市民の方を対象に説明会を実施する予定となっております。それは西側、中央、東側と3か所でやる予定になっていきますので、それが決まれば、また市のほうで広報したいと思います。

まず、道南バスさんで今一番問題になっているのが、運転手が非常に不足している。これは苦小牧だけではなくて、全国的な問題になっていますけど、運転手さんが高齢化になって辞めていられる分、新しい方が入ってきていないという現状でございます。このままいけばバス自体がなくなる可能性もございますので、路線を改線、編成して、バスをうまく人を利用して運行するよということ今考えていますので、その辺も住民説明会で丁寧に説明してまいりたいと考えてございます。

それから、お話にありました高齢者の100円パスにつきましては、これは現状、続ける予定となっておりますので、来年度以降もぜひご活用いただいて、バスを利用してお出かけしていただければと思います。

それで、せっかくの機会ですので、やはり利用者が増えなければ、なかなかバスの収益も上がりませんので、ぜひ何かお出かけの際には、車は便利なんですけども、何回かに1回はバスをご利用していただけるように、皆様にもご協力をお願いしたいと思います。以上です。

◆**市民** すみません。ついでに、自動運転がすごくよかったから、自動運転の実証結果もちょっとついでにお願いしたいと思います。

○**総合政策部長** 今おっしゃったとおり、今年、秋に駅前からぷらっと市場まで自動運転、1か月間実証実験を行いました。検証については、今やっている最中なんですけども、延べ1,300の方が利用していただきまして、乗られた方には、時速20キロなんですけども、思った以上にスピードがあるというお話もいただいていますし、危険性もそれほど感じない、非常によいというお話をいただいています。

それで、市としましては、今後、バスの運転手不足という部分がありますので、こういう自動運転の技術をどんどん入れていきたいと思っていますので、来年度は今度、雪道で自動運転を実証試験をしたいというふうにも今計画していますので、今後も様々な試験を繰り返しながら、実用

化に向けて取り組んでまいりたいと考えております。よろしく申し上げます。

◆市民 ありがとうございます。

◎市長 ちょっと補足しますけど、今、市内の路線バスで道南バスさんが30人近く運転手が不足しています。どうしても今の状況で今の路線をキープするということは、非常に厳しい状態が続いています。

そこで、これは全国でいうと、市内で30路線あったまちが2路線にするとか、全く廃止するとか、そういう都市がどんどん出ているんですが、苫小牧はできるだけ、市のほうでもちろん1億円ちょっと助成も出しています。何とか市民の足を守るために頑張っていきたいなというふうには思っていますが、本当に運転手不足だけは、補助金を出しても、なかなか賄えることではないので、道南バスともいろいろ協議をしながら、少しでも市民の皆さんに、路線を再編すると、喜ぶ方もいるけれども、やっぱり不便になったという方が、必ず両方出てくる話になりますけれども、それよりもやはり路線バス、公共交通を残すということを第一義に、我々は考えなければならぬというふうに思っていますので、そこのところはご理解をいただきたいと思います。

○司会 それでは、ほかにどなたかいらっしゃいませんか。はい。今、マイクをお持ちいたします。

◆市民 桜木町の・・・と申します。85歳以上のごみの戸別収集のことについてちょっとお話ししたいんですけども、この話はもう1週間もたっていない近所での出来事なんですけど、今、四、五人で一つのごみステーションがありますよね。その中のちょっとお年寄りの方が行ったら、まだごみの箱が出ていなかったの、何か引っ張れない、形を作れないということで、籠のところにぽんと置いていかれたそうなんですよね。そうすると、カラスさんが狙っていますので、もう散らかってひどい目に遭っていて、私も行ってちょっと片づけたんですけども、お話に行くと、やっぱり力がなくて引っ張れないし、どうしていいかわからないうちにもう置いちゃったという感じだったんです。

それで、少しごみが出てから置くとか、誰かに頼むとか、何かしたらいいですよみたいな話だったんですけども、その方が85以上になっているかどうかはちょっと定かではないんですけども、戸別収集をするということは、その個人の家の前に何かごみを入れる入れ物を多分置くということを考えていると思うんですよね。ここもちゃんと考えていらっしゃるかなと思うんですけども、風で飛ばないように、なおかつ、お年寄りの方が開けやすいようにということを、もう一度、すみません、念頭に置いて設置していただければありがたいと思います。以上です。

○司会 ありがとうございます。ただいまごみステーションについてということでしたので、市のほうから回答をお願いいたします。

○ゼロごみ推進課長 ゼロごみ推進課の安友と申します。ただいまのお話ですけども、四、五人の方が使っているステーションのお話だと思うんですけども、恐らく開いて閉じるタイプの折り畳みのステーションだと思うんですよね。とまチョップの絵がついているようなステーションでしたかね。

◆市民 そうです。そうでしたね、はい。

○ゼロごみ推進課長 分かりました。そちらのステーションが、私ども、これから10年かけて全て新しいごみステーションに交換しようと、今、計画的に更新しているごみステーションになります。

まず、そのごみステーションの位置、この後、場所を教えてくださいたいと思います。もし在庫等があれば、今、新しいごみステーションがありますので、そちらのほうに交換させていただきたいというものがまず1点です。

それから、冒頭に説明しました85歳以上の方を対象にした戸別収集というのは、まさに今お話にあったような、なかなかごみステーションに行って出すのがちょっと大変だとかというような方を私どもイメージしまして、まずは、85歳以上の方を対象にごみ収集のほうを拡大していきたいということで考えた制度です。

こちらのほうは、もし、来年の4月から申請のほうは始まるんですけども、要件が合致していれば、申し込んでいただくと、それぞれご自宅にごみを入れる容器を用意していただければ、そこに収集の作業員の方が伺って、ごみを収集するというような形になりますので、自分専用のごみステーションということになります。

◆市民 それは、個別で用意するということですか。

○ゼロごみ推進課長 そうです、はい。ですから、例えばポリバケツみたいなものを使う方もいらっしゃるでしょうし、あるいは自分で作ったりする方もいらっしゃるし、何かこれじゃなければいけないというような決まりはございません。

ただ、どういったようなものが使いやすいですよというのは私どもがご紹介できるように、今、こういったものがお勧めできますというようなものを調べておりますので、年明けて申請時期が近づいてまいりましたら、そういった内容も含めて周知させていただきたいというふうに思いますので、よろしくお願いいたします。

◆市民 よろしく願いいたします。

◎市長 ごみ袋に入れて、そのままぼんと置いたら駄目なのか。

○ゼロごみ推進課長 大丈夫です。

◎市長 いいんでしょう。

◎ゼロごみ推進課長 ただ、それをカラスに荒らされた場合には、出された方の責任ということになってしまいます。

◎市長 カラスに。

◎ゼロごみ推進課長 はい。

◎市長 カラスよげが必要。

◎ゼロごみ推進課長 はい。

◎市長 オーケー。

◎ゼロごみ推進課長 よろしいですか。

◆市民 はい、ありがとうございます。

○司会 はい。それでは、後ほど、ごみステーションの位置については確認させていただきたいと思いますので、よろしくお願いいたします。それでは、ほかに。はい。今、マイクをお持ちいたしま

す。

◆市民 豊川町内会の・・・です。よろしく願いいたします。まず、先ほどの、すみません、道南バスのこと出ていたものですから、ちょっと僕もすぐ聞きたいことがあるんです。最近、道南バス、さびがひどい車が走っているんですよ。あれで、市民からの苦情が来ていないかどうか、ちょっとその辺をお聞きしたいんですけど、どうでしょうか。

◎司会 ただいま道南バスのさびがひどいということで、市に何か苦情が寄せられていないかということでしたが、回答をお願いいたします。

◎総合政策部長 総合政策部の町田です。おっしゃるとおり、苦情は来ております。ただ、今後、ちょっと年数ははっきりこの場で言えませんが、数年かけて更新をしていく予定になっていますので、あと五、六年ではさびたバスがなくなる予定ではあります。

たまたま昨日も私、仕事の帰り、澄川なんですけど、家へ帰る途中に、フェリーから東京の都営バスが下りてきて、それは恐らく道南バスさんが中古で買われたんですけども、きれいなバスが入ってきていました。

それをまた塗装してということになりますので、順次、なかなか新車という話にはなりませんけれども、ノンステップバスを今後、順次切り替えていく予定だというのは話は聞いていますので、もう少し年数はかかるかもしれませんが、変えていくということで、もうちょっとさびつきのバス、もうちょっと走るんですけども、そこはちょっと勘弁していただければと思います。よろしく願いします。

◎市長 今、市営バスの時代から使っているやつ、今まだ乗っていますけど、僕が市長になってしばらくの間は、川崎市営バスが現役を終わったものが中古車市場に行って、そこで20万円ないし30万円ぐらいで買ってきて、寒冷地仕様にして、200万円のバスを使っていたんですよ。それでも、・・・さん、ご存じのように、あれだけの赤字が出ていた。それをそのまま道南バスさんでは、もちろん補修はしていますけれども、使っているんですね。

よく市民の皆さんから、あの大きいバスじゃなくて、中古の小さい車でいいんじゃないかというんですけど、中古車市場には中古のバスというのはほとんどないんです。しかも、高いんです。小さいバスのほうが高い。だから、本当に見た目はあれですけど、乗ったら快適ですから、いやいや、本当に。ですけど、僕もバス通勤していたときに、おばあちゃんから、いや、あの市営バスも大変だねと、こうやって頑張ってもらっている。ありがとうと言われたこともあるんですよ。だから、市民の皆さんによって、やっぱり受け止め方が違うんだというふうには思うこと、実感していますけど、もうちょっと我慢してください。

◆市民 分かりました。

◎司会 それでは、ほかにどなたかいらっしゃいませんか。はい。

◆市民 有珠の沢の・・・です。すぐ近くで、このすぐ近くで熊が出たんですよ。

◎市長 桜坂。

◆市民 はい。ご存じだと思いますが、そのときの対応の方法についてなんです。一つは、危機管理という立場では、大変大きな問題だというふうに思うんですね。それともう一つは、住民の安全対

策といえますか、そういう面から一つは大事な点だと思います。

それで、どのような対応を、部署がどこかはちょっと分かりませんが、どのような対応を取られたのか。例えば近隣の町内会、あるいは住民の方に対する連絡方法とか、あるいは事後処理だとか、経過とか、そういうもの、対応についてちょっとお聞かせをいただきたいです。

○司会 はい、ありがとうございます。ただいま、先日の桜坂の熊の出没の対応、どのような対応を取ったのかということでしたので、回答をお願いします。

◎環境生活課長 環境衛生部でヒグマを担当しております武田と申します。お世話になっております。

先日、10月1日の桜坂町のヒグマの目撃に対する対応でございます。まず、10月1日、これは夜でしたので、すぐにまず市のほうで周辺の防災スピーカーを使いまして、ヒグマの出没をお知らせする放送をさせていただきました。

また、翌朝、5時半から地域のほうに入りまして、通勤、通学時間等が朝にありますので、月曜日、町内会の桜坂の皆さんと一緒に現地のほうで警戒をさせていただき、また、夕方から夜にかけても、今度、帰りの皆さんがいらっしゃいますので、午後5時から午後9時まで、ちょうど桜坂の坂の入り口と住宅地に入る出口の付近まで2か所で警戒、警備のほうさせていただきました。

あわせて、この間、月曜日の朝にも防災スピーカーでの放送をしつつ、FMとまこまい、この番組内でも桜坂町での熊の出没について注意喚起を実施いたしました。その後、警戒態勢として1週間、金曜日まで、朝の6時半から朝の9時までと夕方の5時から夜の9時まで、市の職員のほうで警戒をさせていただきつつ、町内会の方にも一緒に対応いただきました。

その後、熊の出没が1週間確認されませんでしたので、今度は予防対策のほうに移行しまして、予防対策としては、爆竹を鳴らすことで熊の接近、出没を防ぐという対策を取らせていただいたことと、あとは、これ庁内で都市建設部とも連携をしまして、緑地公園課のほうで周辺の樹林地を管理していますので、そちらにもお願いをして、熊が潜む笹藪ですね、そちらの刈り払いをしてもらいまして、熊がそこに潜んでいて、出てくるということを防ぐという対策をさせていただきました。

あわせて、熊が嫌がる臭い、忌避剤という薬があるんですが、そちらを熊が出没した地点付近に設置をして、様子を見ながら、間もなくもう3週間になりますけれども、熊の出没のほうは落ち着いているという状況でございます。以上でございます。

◆市民 周知方法といえますかね、その範囲もちょっと問題になるだろうと思いますが、行動範囲が結構広いですよ、ヒグマは。今、全国でも問題になっていますが、そういう面からいきますと、あらかじめいろんな情報を近隣の方に伝えるというのが一番大きなことじゃないかなというふうに思うんです。

したがって、例えば私ども町内会に対しても一切連絡はなかったんですね。確かに防災スピーカーですか、こういうものを使っての連絡はあったと思いますが、具体的には、それだけでは分からない。

ですから、我々、生活安全部とかという、そういう部署もつくっているんですが、それぞれ各

町内会、地域のほうは、そういう対応をする部署は持っていると思うんですね。そういうところを通じて、もうちょっと詳しく連絡をしていただければ、対応の仕方もあったのではないかと。小学校なんかでも、私ら、安全委員会みたいなものをつくって、それから、学校の帰りとか、行くときとか、そういうものも見たりしているんですね。

ですから、そういう具体的な対応はできると思いますけれども、そういう面から、もっともっと細かい情報とありますか、そういうものを教えていただけるとありがたいと思いますが、いかがでしょうか。

◎**環境生活課長** 少し補足をいたしますと、出沒地点は桜坂町でしたが、熊が逃走した方向が宮の森公園でしたので、宮の森町内会さんには同じ情報を共有して、同じく職員を配置しての警戒態勢を取っていただきました。

ただ、それ以外の日新ですとか、周辺の町内会さんにはLINEですとか、防災スピーカーを通じた間接的なお知らせという形になってしましまして、やはり一部の方からは、スピーカーの音が聞こえづらかったというお話ですとか、あとは、実際、LINEで来たものに対して、どこで出たのかという再確認のお電話があったということはございましたので、今後、ヒグマの出沒に関しては、より広い範囲で、なるべく詳細な情報が町内会の役員の皆様に伝わるような連絡について考えてまいりたいと思います。以上でございます。

○**司会** はい。それでは、ほかにもなにかいらっしゃいますか。はい。今、マイクをお持ちいたします。

◆**市民** 有珠の沢の・・・といいます。ちょっと声が悪いので申し訳ない。

今、ちょうど防災ラジオとFMの件が出たんですけども、防災ラジオと防災放送なんですけども、すごくいいことだなと昔から思っていたんですけども、聞いてみると、はっきり言って、それほどでもなかったという私の感想なんですけども。

これはなぜかということは、聞いたときに防災スピーカーにしても、災害があったときには、まず聞こえない。いまだに聞こえないというのが現状です。そして、ラジオは2回目ですけども、ラジオは全然入らない。FMは1回も入らない。AMも入らないということなんですよ。

それで、FMとまこまいが開局したばかりですけども、すごく全域には聞けないということなんですよね。それで、何らかの形で、FMの社長に言っているんですけども、苫小牧全市をカバーできる。そうすると、今ある防災ラジオも、防災放送もといったら、ちょっと語弊がありますが、要らないんじゃないかというぐらいなんです。

それで、何を言いたいかということは、一企業なので、市から助成ということはできないと思うんですけども、何らかの形でそういう、そちらのほうにシフトしていったほうが、総務省には悪いんですけども、シフトしていったほうがいいんじゃないのかなという感じです。その金額はどうやってやるかとか、市からいくから簡単に、はい、年間何千万円の支援しますということはないんですけども、防災という観点からいったら、そのほうがストレートでいいんじゃないのかなということです。

2019年に青年会議所から、市長も一番最初に言って、提案して、いいことだと言ったの、それを継続して何かFMのとまこまいを支援していただきたいなど。別に私はFMから何も言われ

ていませんけども、それは個人的ですけど、何かそういうふうなほうが、はっきり言って、いいのかなと思いましたということです。

○司会 はい、ありがとうございます。ただいま、防災スピーカーと防災ラジオ、それとFMとまこまの活用についてということだったかと思しますので、回答のほうをお願いいたします。

◎危機管理室主幹 危機管理室の川崎と申します。よろしく申し上げます。

まず、防災無線に関してなんですけれども、確かにこの北海道の住環境の中で、家の中にいらっしゃる皆様に全てははっきりお伝えする。聞こえるように届けるというのがなかなかこれは難しいんです。

先日もここを入れた委託業者の方とお話する機会がありまして、音量についての確認をちょっとしたんですね。そのときも、やはりあれ以上大きくしてしまうと、音割れが発生してしまって、逆にもっと聞こえなくなるとか、そういう問題もありまして、なかなか防災無線、いろいろご意見をいただいているんですけれども、ちょっと難しい部分もあるんです。

それで、ラジオとおっしゃっていましたが、三角のラジオでしょうか。

◆市民 いや、今の3,000円で借りている。貸与品です。

◎危機管理室主幹 戸別受信機ですね、はい。戸別受信機の音は聞こえるとは思うんですけれども。

◆市民 いや、聞こえないですね。

◎危機管理室主幹 そうですか。

◆市民 アンテナの下に行っても聞こえない。私、結構好きで回って行くんですけど、それはいいですけど、感度がめちゃ悪いですね。

◎危機管理室主幹 はい。戸別受信機については、防災無線の内容がそのまま流れるという形なので、基本的には聞こえるんじゃないかなと思うんですが、ちょっと確認させてください。

それで、FMとまこまい、開局を今して、流れているんですけど、確かに全域には聞こえないと、聞こえない箇所もあるというのは聞いております。それで、その防災無線もいろいろ、今、携帯を皆さんお持ちだと思うんです。その携帯のほうにちょっとうちの苫小牧市の防災メールというのを登録していただくと、自動的に入ってくるというものがあるんですね。すみません、そちらをちょっとこちら周知不足というところもあったかもしれないんですけども、そちらを今、実はちょっとパンフレットも持ってきているんですね。後でちょっと……。

入れていますか。そうですか。そちらを確認していただいたら、市からの正しい情報というのは行くのかなというふうに、はい、思っていますので、その辺ちょっとすみません。ご理解いただきたいなというふうに思うんですが。

◆市民 いや、私はもう困っていないんですけども、おばあちゃんとか、そういう人たち、私は別に、スマホとかも。

◎危機管理室主幹 そうですね、そういう高齢者の方ですとか、携帯をお持ちでない方に関しましては、いろいろちょっとうちの要支援者名簿とかに登録していただくと、戸別受信機も無償で貸与という形も取れますので、はい、そちらのほう、ちょっとよろしくお願ひしたいと思います。

◎市長 これ、緊急時の周知、あるいは平時の周知等については議会でもいろいろ指摘もあるんですけ

れども、今、これとこれとこれがありますといっても、幅広いチャンネルでやっぱり周知、あるいは緊急通知、平時の通知を考えていかないと駄目な時代なので、それは十分分かっています。FMも含めて。

もっともっと幅広くチャンネルをたくさん持って、万が一のときの周知、あるいは平時の周知、心がけなければならない。今現在進行形を取組でありますので、ただ、閉めていても聞こえるところと聞こえないところというのはどうしてもやっぱり出てきて、それをカバーするにはすごく投資をして、高いアンテナを立ててやらなきゃいけない、なかなかそこはいつも厳しいなと思いつつながら、防災無線、防災ラジオ、あるいはさっき言っていた、あれ、登録、でも、かなり人数は増えてきているんでしょう。

◎危機管理室主幹 そうですね。

◎市長 だけど、そのときにスマホが近くになかったら、駄目だよ。だから、本当に難しいですね、周知というのは。ただ、努力はします。

○司会 はい。それでは、ほかにどなたかいらっしゃいませんか。よろしいでしょうか。

もし、2回目以降でももし、お受けしたいと思いますが、よろしいですか。はい。

◆市民 豊川町内会の・・・といいます。初めまして。初めてこのまちかどミーティングに参加させていただきました。皆さんが言われているとおり、いろいろとそれに個々に言いたいことがたくさんあるんですけど、一つだけと言われたので、ちょっと悩んでいたんですけど、私は個人的に苦情になってしまうかどうかというところで微妙ですけど、鹿対策、ここら辺、毎年倍々で増えていきますよね。

金太郎池とか、王子のともそうですけど、公園になっていますよね、鹿公園。車の事故も出て、僕も2回やられました。バイクでは、この前、2週間前。非常に怖いです。一步間違えたら大変な事故です。ここまで町なかまで鹿が入り込んでくる。これは当然、苦情がたくさん出ていると思うんですよ。これが今後、市としてはどういう対策を取っていくのか。

市だけじゃないと思いますけど、当然北海道、道内、全国的なものかもしれません。でも、市としては、こういう方向でやっていきます。何か方向づけみたいなのが全然感じられないというか、見えないので、ぜひとも、減らすのか、ただ来ないようにするだけなのか、いろんな方法があると思いますけど、ある程度絞り込んで方向性というのを明確にしてほしいなと。安心な苦小牧市であってほしいなと思います。電車事故もありますよね。被害はすごく大きいと思いますよ、年間を通して。ちょっとこれは大きな問題だと思います。熊も含めて。ここを教えてくださいなと思います。

○司会 はい、ありがとうございます。ただいま、鹿対策についてということでしたので、回答のほうをお願いいたします。

◎環境生活課長 環境衛生部でエゾシカを担当しています武田と申します。

ただいま、エゾシカに関する様々な問題について、市の対応の方向性というところをご意見、ご質問がございました。

まず、結論から申し上げますと、市としては、数を減らしつつ、皆様の生活環境被害を個別に

防ぐという方法を同時にやっていくと。これは、鹿対策については何か一つだけというわけではなくて、市として取り得る手段は我々もやっていきたいという方向で考えております。

また、鹿は人と違って、もう自由に野山を動き回る動物でありますので、苫小牧市も白老も関係なく行き来をしております。そうした点から、やはり北海道、広域行政とも連携をしながら、根本的に数を減らすということも大事と考えております。

市として今何をやっているかというところを少しご紹介させていただきますと、まず、数を減らすというところにつきましては、昨年度から市として独自の捕獲事業を開始いたしました。これは市街地周辺での捕獲になりますが、昨年度、初めてやって、一月で156頭捕獲をしております。今年度も目標200頭ということで、継続をする予定となっております。

あわせて、個別の被害対策としては、今年度からお庭の家庭菜園ですとか、庭木ですね、こうしたものを守るための鹿用の鹿よけネット、これは高さ2メートルございます。2メートル掛ける15メートルのネットになりますが、こちらを貸し付ける貸出しの事業のほうも開始をしております。これはお問い合わせいただければ、現地に職員が行って、つけ方ですとか、そうしたものもご相談させていただいております。

交通事故対策、こちら非常に交通事故が苫小牧市内は多いまちでございまして、これは苫小牧警察署さんとちょっと共同で作成したエゾシカ事故発生マップというもの、こちらホームページで公開しておりますが、事故の特に多い路線をあらかじめお知らせをすることで、ご注意くださいという活動にも取り組んでおりますし、先日は、フェリーで来訪されるお客様に、北海道でのエゾシカ事故にご注意いただきたいという啓発事業もさせていただきました。

鹿に関しては、まず数を減らしつつも、やはりこういう個別の事業も大切ですので、交通事故対策とお庭等の生活環境被害対策ですね、こうしたものを合わせながら進めていきたいと考えております。以上でございます。

○司会 よろしいでしょうか。

◎市長 これはもう増えている、幾ら殺処分しても、多分道内各地そうなんだけれども、追いつかない。効果があるという話を聞いたのは、勇払に駐在さんが一人いるんですね。勇払からずっと東港区のほうでやっぱり事故がすごく多くて、仕事にならないという話が昨年ありました。

もう全損事故もあるぐらいに鹿との交通事故が増えて、警察も大変問題になっているんですが、その駐在さんから、もう仕事にならないぐらいに。ということは、遠くなものですから、駐在さんは一人しかいなくて、そこまで行って帰ってくるだけで相当な時間が要る。そこで、市のほうで道路沿いの草カットした。あれだけで相当効果があったという駐在さんの今年の報告がありました。あれは何、見通しがよくなるからということか。

◎環境生活課長 そうです。鹿が道路脇に潜んで、急に飛び出すという性質があるものですから、道路の脇の草をちょっと幅広く刈ることで、鹿を早く発見できるという、そういう事業でありまして。

◎市長 それが去年と今年で一番鹿対策で効果があったという話を直接駐在さんから聞いていますし、鹿が絶対に近寄らないという臭いを出すのが新しく開発されたとか、いろいろあるんですけど、何をやったってなかなか、フェンスをやれと言ったら、北海道全部にフェンスをやらないと意味

がないので、もう本当に難しいなどは思っています。

うちの庭も、うちは神社の近くなんだけど、オンコを全部やられました。フェンスの上にネットを張ったら、効果はありました。北側の住宅がみんなそうやるものだから、どんどん南側に行って、もう群れで市街地まで今、入ってきていますので、本当にこれは頭の痛い問題です。北海道も頭を悩ませています。これ、全道なので。特に、だけど、胆振では苫小牧、集中しているんじゃないの。

◎**環境生活課長** 胆振地方では、やはり苫小牧での交通事故、実は北海道内、ワーストになっておりまして、鹿の生息数が多いのと交通量が多いというところもございます。そういうところもあって、先般、北海道さん、あるいは国土交通省さん、農協さん、農業関係者さん含めて円卓会議ということで、皆さんで知恵を出す機会を始めました。そうしたところからヒントをいただいて、さらなる対策のほうを考えていきたいと思えます。

◆**市民** やっぱり減らす方向でちょっと考えてほしいですね。じゃないと、根本対策にならない。

◎**市長** ならないです。

◎**環境生活課長** そこは、市としても減らしていきたいと考えております。今、年間約2,000頭、狩猟を含めて捕っていますが、さらに捕獲を強めて、鹿被害を防いでいきたいと考えております。

○**司会** はい、それでは、2回目ということで、はい、お願いいたします。

◆**市民** 簡単にやりますので。ごみ推進課の方には本当に大変ご苦労さまと、一生懸命やっているなどというふうに思えます。

それで、検討してほしいことが一つあるんですけども、私、実家が栗山町なんですけども、栗山町では食器ですね、食器とか陶器だとかガラスだとか、そういうものを、役場とか道の駅とか公民館とかに収集ボックスを設けて、それで回収しているんですよ。

なぜかという、アスファルトに混ぜるんですって細かく砕いて。アスファルトに混ぜれば、アスファルトが強化されるということで、栗山町でやっているという話なので、そういう方法もちょっと、そうすれば、ごみがさらに減るんじゃないかなということで、検討していただきたいと思うのが一つと、もう一つは、月に1回、燃やせないごみを出しますよね。

そして、市の清掃所に、私も個人的にも燃やせないものがあるときは持っていくんですけども、私はもう出ていきませんがね。そしたら、どんと入れますよね。その後のことを知りたいんですよ。砕いて、砕くということは知っているんですけども、砕いて、例えば鉄は鉄で有効に使うだとか、アルミをどうするだとか、やっぱりいろんなものが混ざっていますよね、燃やせないごみの中には。その処理の方法について知りたいのと、もう一つ、それに関連して、産業廃棄物の処理場のことなんですけども、今、本州のほうでかいところを造るとかは、今、反対だとかと問題になっていますよね。市の産業廃棄物の処理状況がどういうふうになっているのかも教えてほしいです。

○**司会** はい、ありがとうございます。ただいま3点いただきまして、食器ですとか陶器、ガラス、そういったものの収集ボックスが置けないかということと、燃やせないごみが最終的にどのような処理方法になっているのか。それと、産業廃棄物の処理状況等についてでしたが、回答をお願い

いたします。

◎**ゼロごみ推進課長** ゼロごみ推進課の安友でございます。まず、食器の件ですけれども、私ども、今年から2年間かけてゼロカーボン×ゼロごみ大作戦！というものに取り組んでおります。その中で、食器のリユースという事業に取り組んでおまして、これは、市内の事業者さんで食器を集めて、海外にそのままの状態、要はリユース、再利用するというような取組をしております。

そういった活動と連携して、イベント等で家に眠っている食器をお持ちくださいというような呼びかけをして、それを集めてリユースするというような取組もしております。これ、イベントとかでやっておりますので、常設のボックス等とかを、今現在なかなかないんですけれども、できる限りこういった取組を広げていながら、食器ですから、燃やさないごみになってしまいますので、なるべく再利用できるような取組を広げていきたいなと思っております。

2点目、燃やせないごみの行方なんですけれども、燃やせないごみにつきましては、収集した後、沼ノ端クリーンセンターのほうに運ばれていきます。その後、磁選機というものを通ります。まず最初に砕くんですけど、細かく砕いて、磁選機を通過いたします。そうした中で、アルミ、鉄、スチールについては資源物として取り残されて、それらをまとめて、年に数回に分けて入札して、売却している状況です。そして、最終的にもうこれは埋めるしかないよとなったごみだけを処分するといったような状況になっております。

3点目の産業廃棄物なんですけれども、こちら、大変申し訳ないんですけれども、産業廃棄物というのは北海道の管轄になっておまして、私どもが取り扱っているのは一般廃棄物になりますので、産業廃棄物について、実は詳しい情報を持ち合わせておりません。申し訳ございませんけれども。

ただ、産業廃棄物については、うちのほうでは埋立てもできませんし、焼却等も受け入れてはいないんですけれども、市内にも産業廃棄物を取り扱っている民間の事業者さんはいらっしゃいます。そういった皆様と事業者さんが契約して、適切に処分されたという。

◆**市民** 柏原に持っていくのは何ですか。

◎**ゼロごみ推進課長** 柏原に持っていくものも、あれは一般廃棄物になります。以前は産業廃棄物もあったんですけれども、今は受け入れておりません。全て一般廃棄物になっております。よろしいですか。

◆**市民** 分かりました、すみません。

○**司会** はい。それでは、ほかにどなたかいらっしゃいませんか。よろしいでしょうか。

それでは、いらっしゃらないようですので、これで意見交換を終了させていただきます。

◆**市民** すみません。

○**司会** はい。

◆**市民** 一つ、この本について、いいですか。

○**司会** はい、どうぞ。

◆**市民** おうちで省エネという、この本がありますね、29ページです。これで、ちょっと欠けてあるの、大切なものが欠けているんですよ、私に言わせれば。何が欠けているかという、あれです。

家庭で使う洗濯するときの乾燥機が抜けているんです。

そして、なぜ私がそれを言うかという、こういうことを言う機会がなかなかないから、ちょっとまちかどとは関係ないんですが、たまたま見たから言うんですけど、これを全国の病院だとか、そういうところは別として、各家庭でこの乾燥機を全部なくせば、日本の原子力発電は全部要らないです。これは誰が言っているかといったら、ノーベル賞を取った人が言ってる。

だから、苫小牧の図書館に私がリクエストして、それをやってくれて、私の目に入ったわけですけども。病院とかそういうところは別でしょうけども、各家庭の乾燥機が全部止めると、今、持っている原子力発電は必要ないとノーベル賞の人が言っています。これを見ますと、乾燥機が抜けているんですね、家庭用の乾燥機が。

◆市民 すみません、乾燥機は、何の乾燥機でしょうか。

○司会 洗濯とかに使う乾燥機ですか。

◆市民 はい、家庭用だけです。家庭用だけの乾燥機をなくすると、原子力発電は全部要らないと、これが普通の学者じゃなくて、ノーベル賞の人が言っていますから、一度参考にしたほうが良いと思います。ですから、それだけ電気を食いますから、当然これに載ってなきゃならないわけですよ。たしか、ないはずですね、乾燥機が。省エネの話ですから、当然載ってなきゃならない話です。私でも知っているわけですから。そういう話です。

○司会 はい、分かりました。ありがとうございます。市のほうで参考にお配りさせてもらった資料の29ページの中に洗濯物の乾燥機もあつたら、よりよいのではないかということです。

◎環境衛生部次長 環境衛生部の鈴木と申します。ご指摘いただきまして、ありがとうございます。こちらの冊子なんですけども、書いてあるとおり、これは経済産業省で出している冊子をお配りさせていただいてございます。おっしゃるとおり、食器洗い乾燥機だけでなく、そういった洗濯物の乾燥機ですね、それも確かに載っていませんで、おっしゃるとおり、それも電気を消費しますので、そういったものも当然あつてしかるべきだろうというご指摘ですので。

◆市民 経産省は知っていると思っていたんですね、当然。

◎環境衛生部次長 ええ。

◆市民 でもこんなに大切なやつも載せないということは、故意に載せなかったんじゃないかと疑っている。

◎環境衛生部次長 なるほど。国のほうで作っている冊子ですので、そのようなことはどうかなと思いますけども、ちょっとそういった指摘があつたということは私のほうも、乾燥機も含んで、当然節電の対象にするべきだということは承知いたしております。ありがとうございます。

○司会 はい、よろしいですか。それでは、最後に、本日のまちかどミーティングの終了に当たり、岩倉市長よりご挨拶させていただきます。

◎市長 時間も、大分時間切れになってきました。今日、出席している山本副市長が1回も発言していません。ぜひ最後のご挨拶を山本副市長からさせていただきます。

◎副市長 副市長の山本でございます。今日は出番がございましたので、最後にご挨拶させていただきます。

まず、最初のDJゼロカーボンのほうでございます。今、市のほうではゼロカーボン×ゼロごみ大作戦！というのを2年度にわたりまして、事業をやらせていただいております。DJゼロカーボンもこうして申しましたとおり、コツコツいこうということで、「コツコツいこう次世代のために」をスローガンにやっております。皆様、日々の生活の中でできることから少しでも電気を使わないようにするといった取組をよろしくお願ひしたいと思ひます。

それから、今日も様々なご意見をいただきまして、ありがとうございます。私もちょっとお伺ひしております、市もいろんなことをやっているんですが、なかなかやはり市民の方に一つ一つなかなか伝わらない部分がやっぱりあるなど、非常に難しい点があるなどというふうに感じましたので、どうやったら市民の方に市のやっていることがお伝えできるかということ、ちょっと私も考えてまいりたいと考えてございます。

最後にちょっとPRをさせていただきたいんですが、今日、皆様の資料の中に八王子車人形の苦小牧公演のチラシがございます。今年、八王子市さんと姉妹都市なんですが、姉妹都市盟約を締結しまして、50周年という記念すべき節目の年でございます。

この記念事業として、11月17日、文化会館のほうで八王子車人形の公演がございます。まだまだ席が空いてございますので、皆様、お誘ひ合わせの上、ぜひご来場いただきますよう、よろしくお願ひ申し上げまして、ご挨拶とさせていただきます。本日は誠にありがとうございました。

◎市長 ありがとうございます。

○司会 以上をもちましてまちかどミーティングを閉会いたします。本日は誠にありがとうございました。